総会記念フォーラム報告

第１部

「地域で共に働く・暮らす」をめざして

第 21 回総会後の記念フォーラムでは、「地域から始まる社会連帯経済－国内外の事例から－」と題し、まずは地域連携をテーマに各「はたらっく」より活動報告がありました。

はたらっく・ざま

就労準備支援事業は開始から8年が経ち利用者140名、居場所事業は5年目で登録利用者が130名になりました。これまで大勢の方の支援をしてきましたが、本人の思うような結果にならないケースもあり、家族支援にも力を入れてきました。

「断らない、包括的な支援、伴走・継続支援」をモットーに「チーム座間」のメンバーとして事業を実施していますが、制度にのれない人にも対応するために、定期的な打合せと課題共有の場を豊富に設けてきたので、支援に厚みが出ています。

さがみ生活クラブ組合員や生活クラブ運動グループ内の連携で、組合員サポーターを募集したり、配送センターでの実習、共同企業体会議での課題共有をしています。また、座間市内の実習協力事業者との連携推進のため、昨年度から事業者懇談会を開催しています。

「みんなの居場所ここから」と協働して、さまざまなプログラムを通して利用者の自律にむけた支援を進めていきます。（安斎 佳子）

はたらっく・ゆがわら

湯河原町は生活保護率、高齢化率ともに県内で随一の地域です。そんな中で、はたらっく・ゆがわらの一番の特徴は就労準備支援事業だけでなく、居宅の支援と中・高校生の学習支援・居場所づくり事業を受託していることです。居宅の事業は高齢者の住み替えの依頼が多く、学習支援では大学生がボランティアとして活躍し、子どもたちのよき話し相手になっています。3事業を通して10代から80代まで幅広い年齢層の生活困窮者支援に取り組んでいます。

就労準備支援は高齢やメンタル面での課題がある方がほとんどで、就労に至るケースは多くありません。地域で自立して暮らせることを目指していますが、はたらっく・ゆがわら以外に頼れるところがなく、食べるものがなかったり、体調が悪くて動けなくなった時にSOSを受けることもあり、まるでよろず相談所のようだと感じることもあります。

地域連携については、以前は子ども食堂のような居場所がなかったのですが、はたらっく・ゆがわらの開所をきっかけに生活クラブのアソシエーション「ゆがわらおたすけ隊」が発足し、フードシェアとみんなの食堂を開催してくれているので、利用者だけでなく、地域の外国ルーツの困窮者も多く参加しています。（柏木 晶子）

「はたらっく」は、当事者に寄り添った丁寧な支援で自律をサポートしています

第1部では、「あやせ」は障がい者支援機関との連携を主に、居場所も活用して当事者の気持ちを受け止めていった報告。「ひらつか」は農家との連携で就労を果たしたケースの紹介。「ゆがわら」は短時間のアルバイトは決まるが相談先や居場所がないため城下町コモンズの「おたすけ隊」の食堂や、フードシェアを活用してつなげている事例。「ざま」は当事者の働きたい気持ちに寄り添いながら、さまざまな支援を活用後、最終的には障がい福祉制度利用へとつながったこと。さらに、家族の理解を得るために何回も面談を繰り返すなど、当事者より家族の同意が難しかった報告でした。

就労準備支援は、就労が前提ではないと言いつつも出口を見つけることが優先課題です。困窮されている方たちの先を見つけるには、地域資源の把握が必要です。第2部の田中夏子さんが提起された「一般的利益」という概念から、実態づくりに進んでいる様子が見えたフォーラムでした。　（フォーラム司会　おかだ ゆりこ）

はたらっく・ひらつか

2021年5月より登録受け入れを始め、これまでの利用者は19歳から67歳まで、のべ55名になりました。事業開始から5年目で、利用者を通して連携・協力関係が広がり、平塚市の福祉部や社会福祉協議会のほか、ハローワークや就労移行支援事業所、高齢者よろず相談センター（地域包括支援センター）とも連携できるようになりました。平塚市の神奈川県農福連携コーディネーターとのつながりがきっかけで5軒の農家を含め、実習協力先は33事業所になっています。

2024年度に様々なことに取り組むことができたのは、地域の事業所、ボランティアサポーター・市民講師の協力や地域の他団体との交流・連携、そしてスタッフ全員で意見を出し合って支援するなど、「マンパワー」によるものでした。2025年度もさらに参加協力者を増やし、柔軟な発想で地域ぐるみの事業をより具体化していきます。「その人がその人らしく生きること」を目指して、利用者が笑顔で地域社会へ出ていける支援を進めたいと思います。　（君島 周子）

はたらっく・あやせ

綾瀬市保健福祉プラザに拠点を置き、2023年12月に綾瀬市就労準備支援事業「はたらっく・あやせ」を、また、2024年6月に綾瀬市ひきこもりサポート事業「みんなの居場所ぽーこ・あ・ぽーこ」を開始しました。両事業を開始して2年目に入り、利用者を通した連携・協力関係も少しずつ増えてきています。

綾瀬市福祉総務課からの委託を受けたアウトリーチの担当者は、ひきこもり当事者の家に出向き、社会とつながるための働きかけやサポートをしています。後に「ぽーこ・あ・ぽーこ」につながるケースもあります。また、利用者が自立するために必要なサポートも担っています。

利用者で障害者手帳を取得されている方は、就労するために障がい児者相談支援センターで作業所の紹介を受けたり、グループホームの入所等の相談をされます。また、「はたらっく・あやせ」の事業を理解し、体験実習の受け入れに協力してくださる綾瀬市内の事業者が4月末現在で16か所になりました。今後の課題として、体験実習から就労までを引き受けてくださる事業者の開拓も必須となっています。　（角田 加津代）